



一步先行くタカサキの支援
市長 例えば買い物などに行く場合にお子さんを預かってくれるところはありますか？
森 主人が土日に出勤だと、子



富岡 賢治市長

子育てした経験を生かし、子育てしやすいまちとして働く女性や子育て世代を応援する体制づくりを進めている



矢島 直子さん

ママの仕事探しバスに参加。高崎オーパ内の飲食店にアルバイト勤務。小学5年生と2年生のママ。貝沢町在住



森 景子さん

夫の転勤で出身の高崎に転入。看護師の就職ガイダンスに参加し、市内の病院に勤務。4歳と1歳の保育園児のママ。吉井町在住



大澤 めぐみさん

市内の看護大学に事務職員として勤務。子育てなんでもセンターの就労相談を利用。1歳7か月のお子さんのママ。小八木町在住

どもの世話があつて、美容院にも行けないくらいです。
市長 そんなときは、子育てなんでもセンターに、朝7時30分から夜10時まで、誰でも利用できる託児所がありますよ。買い物でもいいし、美容院に行くのでも、音楽会に行つて子育ての息抜きをするのもいい。預ける理由は特に問わないんです。子育てをちょっと手助けしてもらふことで、気持ちにも余裕が生まれるんですよ。さらにこの4月からは、電話一本で子育て経験が豊富な人や保健師が駆けつけて、食事の支度や洗濯といった家事、子どもの面倒などを手助けしてくれる、子育てSOSサービスという制度を始める準備をしています。2年前に介護離職などの課題に対応するために、介護SOSサービスという制度をはじめましたが、この子育て版です。全国でもまだどこにも無いサービスですよ。
大澤 聞いたことありません。利用条件などはあるんですか？
市長 妊娠中の人や未就学児がいる家が対象で、費用は、1時間2500円ほどの予定です。
矢島 安いですね！
市長 特に妊娠中は、家事などもつらいですからね。多くの人に利用してもらえたらと考えて

仕事探しから子育てまで

働きたいママを応援します



市 は、子育てしながら働きたい女性を積極的に応援しています。子育てなんでもセンターには就労相談の窓口を常設。保育士や看護師の就職相談会や、働きたいママの仕事探しバスの開催など、ハローワークや企業なども協力して、さまざまな支援を行っています。今回は、それらを利用して再就職した人を迎えて、働くママの現状や必要な支援について、お話を伺います。

社会全体で子育ての応援を

市長 私は長いこと公務員として勤めていたんですが、職場にも一生懸命働いている優秀な女性がたくさんいましたよ。でも皆さんご苦労されているなど感じていました。身だしなみもそこそこ出勤なさる人もいましたし、会議の途中で退席して子どもの迎えを電話でやり取りする人の姿も茶飯事でしたから。子育てしながら女性が第一線で働くことの大変さはよく分かっています。昔より、働く女性に対して配慮されるようになりましたが、まだまだ苦労はあるでしょう。社会全体で支えることを考えていかなければ少子化は避けられませんよ。大澤さんは、子育てなんでもセンターの就労相談を利用なさったんですか？
大澤 はい。独身時代は正社員

でしたが、結婚してからはアルバイトだったんです。ずっとこのままかなと思っていたんですが、センターの就労相談に行ったら「正規雇用も諦めることはないよ」と言っていたので。

市長 子育てなんでもセンターでは、気軽に就労相談ができるんです。交流ルームでママ友同士の楽しいおしゃべりの合間に就労相談、なんてこともできます。ハローワークは国の機関ですが、市の施策に協力的で、週1回センターの窓口を担当者が来てくれています。社会全体で協力して支援していこうという意識が高まっています。働くこと、専業主婦として家庭を切り盛りすること、どちらも大事。それを選べるようにしたい。大澤さんは働きたいという気持ちをお持ちですか？
大澤 そうですね。私は、働く

います。

気軽に参加できるバスツアー
職場を訪れて受ける刺激

市長 矢島さんは以前お仕事をなさっていたんですか？
矢島 はい。結婚後も自分の空いた時間にできる配布員の仕事をしていたんです。昨年、市主催の「ママの仕事探しバス」に参加したのがきっかけで、もう少し働きたいと考えるようになりまして。今は高崎オーパ内の飲食店で週に3、4日、アルバイトをしています。
市長 このツアーは、気軽に参加してもらえらるんですよ。
矢島 友達と一緒に参加したんですが、すごく楽しかったです。内容もとても充実したものでした。きれいなバスでお総菜屋さんに見学に行ったのですが、そ



ママの仕事探しバスでの企業訪問

ここで実際に働くママさんの生活の様子をいろいろ伺って、私も働きたいなと思いました。もう少し社会とつながりたいという思いが強まって、本当にいいきっかけになりましたね。
市長 そうですか。以前は、カフェで開催していたんです。お茶を飲みながら企業の担当者からアドバイスが聞けるという感じの。同じように看護師や保育士のバスツアーも始めたんですよ。最初の年はあまり参加者がいなかったんですが、口コミで広がって、今では毎回大勢の人が参加してくれています。いろいろな職種でこうしたツアーを始めたらと提案しているんですよ。
**病児保育から遊び場まで
子どもの目線を大切に**
市長 高崎で子育てをしていて感じることはありませんか？
森 病児保育の受け入れ場所が増えたらいいなと思います。吉井地域には無いので。
市長 現在、高崎には3か所しかないのですが、今年もう1か所増やす予定です。病院が無いと難しいのですが、今後もっと増やしていきたいと思っています。
大澤 近くに公園もあって、東京に比べると、高崎は子育てし

保育所をもっと選びやすく
専門職の就職活動も支援



看護師の再就職ガイダンス

ことでやりがいを持っていたいと思っています。相談担当の人のおかげもあり、現在は看護系の大学で正規の事務職員として働いています。
市長 就労相談も好評で、これまでに81人が就職、うち21人が正規雇用されています。
市長 森さんは以前、神奈川で看護師をなさっていたんです。ご主人の転勤で高崎に？
森 はい。前の職場は退職して高崎に来ました。それが昨年の5月で、おかげさまで6月には子どもの保育園が決まって。
市長 それは良かった。これは全国でも例が無いんですが、4月からは、保育所の申し込みから2週間以内に返事をするようにします。これまでは3か月も

やすいまちだと思いますね。
矢島 私は、子どもが身体を動かせる遊び場や水場が欲しいと思っています。
市長 私も高崎には小さな子どもの遊び場が少ないと思っていて、カッピアの跡地に知的遊具を備えたケルナー広場を造ったり、河原のゴルフ場跡地をそのまま利用して、芝生が広がる鳥川かわなか緑の広場にしたりしました。同じく河川敷の自動車教習所の跡地を芝生のサッカーグラウンドにしたいんですよ。あと高崎には市内の遊び場が無いので、今後、駅の東口側に親子が寝転んで絵本などに親しめる子ども図書館や室内の遊び場を造りたいと考えています。
大澤 私は市役所の中に子ども遊び場があったらいいなと思います。住民票などを取りに行くとき、広いので子どもが走り回ってしまつて。
市長 それは面白いですね。子どもの目線で考えてみると、いろいろと見えてくるんがあると思います。ちょっとした工夫でまちは変わっていくんですよ。これからも子育てしやすいまちとして働く女性、子育て世代を応援していきたいと思っています。本日はありがとうございました。
一同 ありがとうございます。